

基準範囲と測定方法（生化学・免疫血清学検査）

2026.04.08 現在

生化学検査								
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器		
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	13～30	U/L	JSCC標準化対応法	JCCLS 共用基準範囲	AtellicaCH		
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ	M 10～42 F 7～23		IFCC基準測定法	IFCC共用基準範囲			
LD	乳酸脱水素酵素	124～222						
ALP	アルカリフォスファターゼ	38～113		JSCC標準化対応法	JCCLS 共用基準範囲			
γ-GT	γ-グルタミルトランスヘプチダーゼ	M 13～64 F 9～32	U/L	L-ロイシル-Pニトロアニリド基質法	添付文書			
LAP	ロイシンアミノペプチターゼ	30～70		JSCC標準化対応（p-ヒドロキシベンゾイルコリンを基質とする方法）	JCCLS 共用基準範囲			
ChE	コリンエステラーゼ	M 240～486 F 201～421						
CK	クレアチンフォスフォキナーゼ	M 59～248 F 41～153						
AMY	アミラーゼ	44～132		エチルデンG7-pNP				
TP	総蛋白	6.6～8.1	g/dL	ビウレット法	JCCLS 共用基準範囲		AtellicaCH	
Alb	アルブミン	4.1～5.1	g/dL	BCP改良法				
T-Bil	総ビリルビン	0.4～1.5	mg/dL	バナジン酸酸化法				
D-Bil	直接ビリルビン	≤0.3	mg/dL	バナジン酸酸化法				添付文書
UN	尿素窒素	8～20	mg/dL	酵素法（アンモニア除去法）	JCCLS 共用基準範囲			AtellicaCH
CRE	クレアチニン	M 0.65～1.07 F 0.46～0.79	mg/dL	酵素法				
UA	尿酸	3.1～7.0	mg/dL	ウリカーゼ-POD法	高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第3版 2022年追加版（上限） 慢性低尿酸血症診療ガイドライン第1版（下限）			
Na	ナトリウム	138～145	mmol/L	イオン選択性電極法 （希釈法）	JCCLS 共用基準範囲			
K	カリウム	3.6～4.8						
Cl	クロール	101～108						
Ca	カルシウム	8.8～10.1				mg/dL		
Pi	無機リン	2.7～4.6	mg/dL	酵素法	添付文書			
Fe	鉄	40～188	μg/dL	Nitroso-PSAP法				
UIBC	不飽和鉄結合能	M 170～250 F 180～270	μg/dL	Nitroso-PSAP法				
Zn	亜鉛	80～130	μg/dL	直接法				
Mg	マグネシウム	1.6～2.6	mg/dL	キシリジブルー法	JCCLS 共用基準範囲（下限） 動脈硬化症疾患予防ガイドライン 2022年版第3版（上限） ※臨床判断値			
T-Cho	総コレステロール	142～219	mg/dL	酵素法				
TG	トリグリセリド	M 40～149 F 30～149	mg/dL	酵素法（カタラーゼ除去法）				
HDL-C	HDL-コレステロール	M 40～90 F 40～103	mg/dL	直接法		JCCLS 共用基準範囲（上限） 動脈硬化症疾患予防ガイドライン 2022年版第3版（下限） ※臨床判断値		
LDL-C	LDL-コレステロール	65～139	mg/dL		JCCLS 共用基準範囲（下限） 動脈硬化症疾患予防ガイドライン 2022年版第3版（上限） ※臨床判断値			
TBA	総胆汁酸	≤10	μmol/L	酵素法	添付文書	AtellicaIM		
NH ₃	アンモニア	19～54	μg/dL	酵素法				
LACTATE	乳酸	4.5～19.8	mg/dL	酵素法				
KL-6	シアル化糖鎖抗原KL-6	≤499	U/mL	ラテックス凝集比濁法				
SP-D	サーファクタントプロテインD	<109.8	ng/mL	ラテックス凝集比濁法	※臨床判断値			
CRP	C反応性蛋白	≤0.3	mg/dL	ラテックス凝集比濁法			JCCLS 共用基準範囲	
IgG	免疫グロブリンG	861～1747		免疫比濁法				
IgA	免疫グロブリンA	93～393						
IgM	免疫グロブリンM	M 33～183 F 50～269						
C3	C3	73～138						
C4	C4	11～31						
Tf	トランスフェリン	M 215～365 F 250～380	ng/mL	CLIA法	添付文書			
Ft	フェリチン	M 12.9～301.3 F 5.0～177.6		ラテックス免疫比濁法				
β ₂ m	β2マイクログロブリン	≤2.00	μg/mL	ラテックス免疫比濁法			添付文書	AtellicaCH
プレALB	プレアルブミン	10～40	mg/dL	免疫比濁法				
RBP	レチノール結合タンパク	M 2.7～6.0 F 1.9～4.6	mg/dL	ラテックス凝集比濁法				
U-NGAL	尿中好酸球ゼラチナーゼ結合性リボカイン	≤30.5	ng/mL	CLIA法	添付文書	AtellicaCH		
総ケトン体	総ケトン体	28～120	μmol/L	酵素サイクリング法				
ケトン体3HB	3-ヒドロキシ酪酸	≤74	μmol/L	酵素サイクリング法				
IgG4	IgG4	11.0～121.0	mg/dL	ラテックス凝集比濁法				
HP	ハプトグロビン	30～200	mg/dL	免疫比濁法	添付文書	cobas e801(Roche)		
IL-6	インターロイキン6	≤7	pg/mL	電気化学発光免疫測定法（ECLIA）				

血糖関連検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
Glu	グルコース	73～109	mg/dL	ヘキシナーゼ酵素法	JCCLS 共用基準範囲	AtellicaCH
HbA1c	ヘモグロビンA1c	4.9～6.0	%	HPLC法		HLC-723G11(東ソー)
HbF	ヘモグロビンF	0.0～1.5	%	HPLC法	添付文書	
インスリン	インスリン	空腹時 2.19～9.89	μU/mL	CLIA法	添付文書	AtellicaIM
C-PEP	C-ペプチド(血清)	0.74～3.48	ng/mL			
	C-ペプチド(尿)	10.5～167.9	μg/day			

GA	グリオアルブミン	11～16	%	酵素法		Atellica CH
----	----------	-------	---	-----	--	-------------

蛋白分画						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
Alb %	アルブミン	55.8～66.1	%	キャピラリー電気泳動法	Sebia社データ	Mini cap（Sebia社）
A1-G-%	α_1 -グロブリン	2.9～4.9				
A2-G-%	α_2 -グロブリン	7.1～11.8				
B1-G-%	β_1 -グロブリン	4.7～7.2				
B2-G-%	β_2 -グロブリン	3.2～6.5				
G-G-%	γ -グロブリン	11.1～18.8				

アインザイム検査・心機能検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
P-AMY	腭型アミラーゼ	約40	%	IチリテンG7-pNP	臨床検査法提要	Atellica CH
S-AMY	唾液腺型 アミラーゼ	約60				
CK-MB	筋、脳型クレアチンキナーゼ	<5.0	ng/mL	CLIA法	添付文書	Atellica IM
TNI H	高感度トロポニンI	血清)0.035～ 0.064 血漿)0.033～ 0.064				
BNP	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド	≤18.4				

その他						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
Ccr 1h	クレアチニンクリアランス1時間法	70～130	mL/min	CRE測定原理: 酵素法	臨床検査法提要 *日本成人体表面積1.73m ² で計算	Atellica CH
Ccr 24h	クレアチニンクリアランス24時間法	※臨床判断	L/day			
ICG	(インドシアニングリーン試験)			アレンの演算表示法	臨床検査法提要	ICGメーター
	停滞率 ICG(R) 15分	0～10	%			
	消失率 ICG(K)	0.168～0.206				

腫瘍マーカー検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
PSA	前立腺特異抗原	≤4.0	ng/mL	化学発光免疫測定法 (CLIA)	添付文書	Atellica IM
CA-125	糖鎖抗原 125	≤35	U/mL			Allinity i
HE4	HE4	閉経前≤70 閉経後≤140	pmol/L			
CA-15-3	糖鎖抗原 15-3	≤32.4	U/mL			Atellica IM
AFP	αーフェトプロテイン	≤9.9	ng/mL			
CEA	癌胎児性抗原	≤5.0	ng/mL			
CA19-9	糖鎖抗原 19-9	≤37	U/mL		添付文書	Allinity i
PIVKA II	PIVKA II	≤40	mAU/mL			
SCC	SCC	≤1.5	ng/mL			
シフラ	シフラ(サイトケラチン19)	≤2.08	ng/mL		添付文書	
AFP-L3	AFP-L3分画	<10	%	LBA-EATA法	添付文書	μ -TAS wako
sIL-2R	可溶性インターロイキン-2レセプター	204～587	U/mL	ラテックス凝集比濁法	添付文書	Atellica CH

感染症検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器と試薬
HBs抗原	B型肝炎ウイルスs抗原	<0.05	IU/mL	化学発光免疫測定法 (CLIA)	添付文書	Allinity i
HBs抗体	B型肝炎ウイルスs抗体	<10.0	mIU/mL			Atellica IM
HBc抗体	B型肝炎ウイルスc抗体	<1.0	Index			
HBe抗原	B型肝炎ウイルスe抗原	<0.80	Index			
HBe抗体	B型肝炎ウイルスe抗体	<1.00	Index			
HCV抗体	C型肝炎ウイルス抗体	<1.00	Index			
HIVAgAb	HIV抗原(p24)/抗体(1:2)	<1.00	Index			Allinity i
HTLV- I / II	HTLV- I / II 抗体	<1.00	S/CO			
TP- Ab	トレポネマパリダム抗体定性	－		化学発光免疫測定法 (CLIA)		Atellica IM
RPR-CT	梅毒反応(カルジオリビン) 定性	－		ラテックス免疫比濁法	添付文書	Atellica CH
RPR-CT	梅毒反応(カルジオリビン) 定量	<1.0	R.U (※RPR UNITS)	ラテックス免疫比濁法		Atellica CH
βグелカン	β-D-グルカン	<11.0	pg/mL	発色合成基質法		リムセイブMT-7500
PCT	プロカルシトニン	<0.1	ng/mL	化学発光免疫測定法 (CLIA)		Atellica IM

甲状腺ホルモン検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器と試薬
FT3	フリートリヨードサイロニン	2.13～4.07	pg/mL	化学発光免疫測定法 (CLIA)	添付文書	Atellica IM
FT4	フリーサイロキシシン	0.95～1.74	ng/dL			
TSH	甲状腺刺激ホルモン	0.61～4.23	μ IU/mL		ハーモナイゼーション基準範囲	
HTG	サイログロブリン	≤33.7	ng/mL	電気化学発光免疫測定法 (ECLIA)	添付文書	cobas e801(Roche)
A-TG	抗サイログロブリン抗体	<28	IU/mL			
A-TPO	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	<16	IU/mL			
TRAb	抗TSHレセプター抗体定量	<2.0	IU/L			

副甲状腺ホルモン検査						
項目略称	項目名称	基準範囲		測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器と試薬
PTH-INT	副甲状腺ホルモンIntact-PTH	血清)18.5～88.0	pg/mL	化学発光免疫測定法 (CLIA)	添付文書	Atellica IM
カルシニン	カルシトニン	M ≤9.52 F ≤6.40	pg/mL	電気化学発光免疫測定法 (ECLIA)		cobas e801(Roche)

副腎皮質・下垂体ホルモン関連検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器と試薬
ACTH	副腎皮質刺激ホルモン	7.2～63.3	pg/mL	電気化学発光免疫測定法 (ECLIA)	添付文書	cobas e801(Roche)
コルチゾール	コルチゾール	AM 7～9時 :5.27～22.45 PM 3～ 5時 :3.44～16.76	μ g/dL	化学発光免疫測定法 (CLIA)		Atellica IM
HGH	ヒト成長ホルモン	M 0～2.47 F 0.13～9.88	ng/mL	電気化学発光免疫測定法 (ECLIA)		cobas e801(Roche)

婦人科ホルモン検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
LH	ヒト黄体形成ホルモン	※1参照	mIU/mL	化学発光免疫測定法 (CLIA)	添付文書 ※1 男性 (0.1～8.7)、女性 正常月経周期卵胞期 (1.2～13.3)、排卵期 (1.3～55.7)、黄体期 (0.5～16.5)、閉経後 (13.3～61.6) ※2 男性 (<0.3～13.8)、女性 卵胞期 (2.2～11.5)、排卵期 (2.1～18.6)、黄体期 (1.1～10.6)、閉経後 (10.5～142.8) ※3 男性 (3.7～16.3)、女性; 卵胞期 (4.6～26.8)、排卵期 (6.0～40.9)、黄体期 (1.2～33.6)、閉経前 (3.5～32.7)、閉経後 (0.6～18.5) ※4 男性 (<39.8)、女性; 正常月経周期卵胞期前期 (19.5～144.2)、排卵期 (63.9～356.7) 黄体期 (55.8～214.2)、閉経後 (<32.2) ※5 男性 (<0.9)、女性; 正常月経周期卵胞期 (<1.2)、排卵期 (0.3～10.4)、黄体期 (1.4～20.6)、閉経後 (<0.9)、	Atellica IM
FSH	ヒト卵胞刺激ホルモン	※2参照	mIU/mL			
PRL	ヒトプロラクチン	※3参照	ng/mL			
E2	エストラジオール	※4参照	pg/mL			
PROGE	プロゲステロン	※5参照	ng/mL			
HCG	ヒト絨毛性ゴナドトロピン	<10.1	mIU/mL		添付文書	

血中薬物濃度検査						
項目略称	項目名称	有効治療域	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
PHT	フェニトイン	10～20 *1	μ g/mL	PETINIA法	添付文書	Atellica CH
PB	フェノバルビタール	15～40 *1				
VPA	バルプロ酸	50～100 *1				
THEO	テオフィリン	10～20 *1				
CBZ	カルバマゼピン	4～12 *				
DX	ジゴキシシン	0.8～2.0 *1	ng/mL	ラテックス免疫比濁法	添付文書	Atellica IM
GSA	シクロスポリン	当院薬剤部に問合せのこと	ng/mL	CLIA法		
VANC	バンコマイシン	当院感染制御部に問合せのこと	μ g/mL	PETINIA法		
ACTM	アセトアミノフェン	1.0～2.0 摂取4時間後の中毒濃度>15.0 摂取12時間後の中毒濃度> 4.0	mg/mL	酵素法		Atellica CH
TEIC	テイコブラニン	15～30	μ g/mL	ラテックス免疫比濁法	抗菌薬TDM臨床実践ガイドライン2022	
Li	リチウム	1.0～1.2	mmol/L	直接比色法	添付文書	
MTX	メトトレキサート	当院薬剤部に問合せのこと	μ mol/L	ホモジニアスエッセイ/アッセイ法	添付文書	
TACR	タクロリムス	5～20	ng/mL	酵素免疫測定法	臨床検査項目辞典	

*1 個体差有

アレルギー検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
IgE定量	特異IgE	≤0.34	UA/mL	蛍光酵素免疫測定法	添付文書	UniCAP250
	総 IgE	<170 (7才以上)	IU/mL			

抗核抗体検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器と試薬
ENA	定量検査					
ds-DNA	抗ds-DNA抗体	<10	IU/mL	蛍光酵素免疫測定法	添付文書	UniCAP250
U1RNP	抗U1RNP抗体	<3.5				
SmDp	抗SmDp抗体	<7.0				
SS-A	抗SS-A抗体	<7.0				
SS-B	抗SS-B抗体	<7.0				
Scl-70s	抗Scl-70s抗体	<7.0				
Jo-1	抗 Jo-1 抗体	<7.0				
MPO-ANCA	ミロペルオキシダーゼ-抗好中球細胞質抗体	<3.5	IU/mL			
PR3-ANCA	プロテイナーゼ3-抗好中球細胞質抗体	<2.0				
トリIgG	特異的IgG 鳥	セキセイインコ <8 ハト<24	mgA/L			

血液ガス検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
pH	PH	7.35～7.45	Torr (mmHg)	電位差測定法	日本臨床検査自動化学会推奨	ラビットポイント500e
P _{CO2}	炭酸ガス分圧	35～45				
P _{O2}	酸素分圧	80～100	Torr (mmHg)	電流測定法		
HCO ₃ ⁻	重炭酸イオン	22～26	mmol/L	演算法		

2009年 3月改訂	目黒サキ子	2010年11月改訂	羽根正子	2016年1月改訂	佐々木・半沢	2017年7月改訂	半沢	2021年6月改訂	佐々木義和
2009年 6月改訂	目黒サキ子	2011年 7月改訂	羽根正子	2016年9月改訂	半沢雄助	2018年5月改訂	岡崎	2021年9月改訂	佐々木義和
2009年10月改訂	本田健次	2012年 2月改訂	羽根正子	2016年10月改訂	半沢雄助	2019年1月改訂	佐々木	2023年8月改訂	宮原涼馬
2010年10月改訂	羽田良子	2014年 3月改訂	羽根正子	2017年1月改訂	半沢雄助	2019年9月改訂	佐々木	2024年11月改訂	佐々木義和
2012年 4月改訂	羽根正子	2015年 6月改訂	佐々木	2017年3月改訂	半沢雄助	2020年3月改訂	佐々木	2025年1月改訂	佐々木義和
2025年3月改訂	河合裕美	2026年4月改訂	宮原涼馬						
2025年12月改訂	宮原涼馬								
2026年2月改訂	宮原涼馬								

基準範囲と測定方法（尿・一般検査）

尿定性検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
U-PH	尿pH	pH4.5～7.5		複合指示薬法	臨床検査法提要参照	クリニテック ノーパス
U-GLU	尿糖定性	(－)		GOD,PODのモノーゲン反応		
U-PRO	尿蛋白定性	(－)		指示薬の蛋白誤差反応		
U-BLD	尿潜血反応	(－)		Hbのペルオキシダーゼ作用		
U-KET	尿ケトン体定性	(－)		ランゲ反応の応用		
U-URO	尿ウロビリノーゲン定性	(±)		Ehrlich反応の応用		
U-NIT	尿亜硝酸塩定性	(－)		Griese反応		
U-SG	尿比重	1.005～1.030		屈折法		
U-LEU	尿白血球検査	(－)		色原体氣質を用いるエステラーゼ活性検出反応		
U-BIL	尿ビリルビン定性	(－)		ジアゾカップリング法		
U-ALB	尿アルブミン定性	5～20	mg/L	指示薬の蛋白誤差反応	添付文書参照	
U-A/C比	尿アルブミン/クレアチニン比	Normal				
U-P/C比	尿蛋白/クレアチニン比	Normal				

尿定量						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準範囲の設定根拠	測定機器
NA-UQ	尿中ナトリウム	70～250	mmol/日	イオン選択電極法（希釈法）	臨床検査法提要参照	Atellica
K-UQ	尿中カリウム	25～100	mmol/日			
CL-UQ	尿中クロール	70～250	mmol/日			
CA-UQ	尿中カルシウム	0.15～0.29	g/日	アルセナゾⅢ法		
IP-UQ	尿中無機リン	0.5～1.0	g/日	酵素法		
UN-UQ	尿中尿素窒素	6.5～13.0	g/日	酵素法（アンモニア消去法）		
CREA-UQ	尿中クレアチニン	0.5～1.5	g/日	酵素法		
UA-UQ	尿中尿酸	0.4～1.2	g/日	ウリガーゼ [®] -POD法		
GLU-UQ	尿中グルコース	40～85	mg/日	ヘキシナーゼ [®] 酵素法		
PROT-UQ	尿中蛋白	20～120	mg/日	ビロロ [®] ロールレッド [®] 法		
ALB-UQ	尿中アルブミン	<30	mg/日	免疫比濁法	添付文書参照	
ALB/CREA	尿中アルブミン/クレアチニン補正值（随時尿）	<30	mg/g・Cr		日本糖尿病学会推奨	
AMY-UQ	尿中アミラーゼ [®]	≤650	U/L	エチルデンG7-pNP	添付文書参照	
NAG	N-アセチルグルコサミナーゼ [®]	M 1.9～8.7 F 1.3～4.5 （随時尿）1～4.2	U/日 U/L	MPT-NAG法	臨床検査法提要参照	
B2-MG-U	尿中βミクログロブリン	11～253 （随時尿）0.03～0.34	μg/日 μg/mL	ラテックス免疫比濁法		

浸透圧						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準範囲の設定根拠	測定機器
Posm	血漿浸透圧	275～290	mOsm/kgH ₂ O	氷点降下法	臨床検査法提要参照	オースモレーション2 OM-6070
Uosm	尿浸透圧	50～1300				

関節液結晶						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準範囲の設定根拠	測定機器
尿酸Na	尿酸Na結晶	－		偏光顕微鏡による複屈折性の確認	臨床検査法提要参照	偏光顕微鏡
ヒロリン酸Ca	ヒロリン酸Ca結晶	－				

尿沈査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
RBC	赤血球	4個以下/HPF		フローサイトメリー法	尿沈渣検査法2010	UF-5000
WBC	白血球	4個以下/HPF				
CAST	円柱	通常認めない				
BACT	細菌	4個以下/HPF (－)				

髄液検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
Glu-CSF	グルコース	50～75	mg/dL	ヘキシナーゼ酵素法	臨床検査法提要	Atellica
TP-CSF	蛋白	10～40	mg/dL	ビロロロールレッド法		
Cells-CSF	髄液白血球数	新生児≤20 乳児≤10 乳児以降≤5	/μL	フローサイトメリー法		XN-9100

穿刺液検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
SG-PU	穿刺液比重	滲出液≥1.018 漏出液≤1.015		屈折法	臨床検査法提要	屈折計
CELLS-PU	穿刺液白血球数	滲出液 胸水>1000/μL 腹水>100/μL		フローサイトメリー法	一般検査技術教本	XN-9100

便潜血検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器と試薬
F-Immuno	便潜血免疫法	≤100	ng/mL	ラテックス凝集反応の免疫比濁法	添付文書参照	OCセンサーio

虫卵検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器と試薬
塗抹法	虫卵-塗抹法	－		直接塗抹法	臨床検査法提要	

集卵法	虫卵-集卵法	—		集卵法	集卵法	
-----	--------	---	--	-----	-----	--

2004年12月	改訂	加藤 裕子	2014年6月	改訂	鈴木律子	2021年9月	改訂	鈴木律子
2006年 4月	改訂	加藤 裕子	2017年3月	改訂	鈴木律子	2023年1月	改訂	河合裕美
2008年 12月	改訂	大矢 みどり	2021年1月	改訂	河合裕美	2024年9月	改訂	鈴木律子
2025年3月	改訂	鈴木律子						
2026年4月	改訂	鈴木律子						

基準範囲と測定方法（血液検査）

血球計数						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
WBC	白血球数	3.3～8.6	× 10 ³ /μ L	フローサイトメトリー法	JCCLS 共用基準範囲	シスメックス XN-9100
RBC	赤血球数	M 4.35～5.55 F 3.86～4.92	× 10 ⁶ /μ L	シースフロー-DC検出法		
Hb	ヘモグロビン濃度	M 13.7～16.8 F 11.6～14.8	g/dL	SLS-ヘモグロビン法		
Ht	ヘマトクリット値	M 40.7～50.1 F 35.1～44.4	%	シースフロー-DC検出法		
MCV	平均赤血球容積	83.6～98.2	fL			
MCH	平均赤血球ヘモグロビン量	27.5～33.2	pg			
MCHC	平均赤血球ヘモグロビン濃度	31.7～35.3	g/dL			
RDW	赤血球分布幅		%			
PLT	血小板数	158～348	× 10 ³ /μ L	フローサイトメトリー法 または シースフロー-DC検出法		
PCT	血小板クリット値(リサーチ項目)	設定なし	%	シースフロー-DC検出法	臨床判断による	
MPV	平均血小板容積		fL			
PDW	血小板分布幅(リサーチ項目)		%	フローサイトメトリー法	自施設データ	
IPF	幼稚血小板比率(リサーチ項目)					
Ret	網状赤血球数	7.3～22.3	‰			
NE%	好中球比率	44～74	%			
LY%	リンパ球比率	20～50				
MO%	単球比率	1～14				
EO%	好酸球比率	0～6				
BA%	好塩基球比率	0～1				
NRBC%	有核赤血球比率	0				

特殊染色						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	試薬
MG染色	メイグリューンワルドギムザ染色	設定なし	なし	ロマンフスキー法	臨床判断による	用手法
MPO染色	ペルオキシダーゼ染色			DAB法		
EST染色	エステラーゼ二重染色			エステラーゼクロロアセテートブチレート二重染色		
PAS染色	バス染色			パラニトロロアニリンシッフ法		
ALP染色	アルカリフォスファターゼ染色	陽性指数 170～330(参考値) 陽性率 75～95(参考値)	なし (陽性指数) % (陽性率)	ナフトールAS-MXフォスフェートジアゾニウム塩法	朝長法	武藤化学キット
ACP染色	酸フォスファターゼ染色	設定なし	なし	ホスフォモノエステラーゼ法	臨床判断による	
FE染色	鉄染色			フェロシアン化カリウムと3価鉄結合法		

凝固検査						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器
PT	プロトロンビン時間	70.0～130.0	%	凝固時間法 (散乱光検出方式)	添付文書	CN-6000
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間	24.0～34.0	秒			
FBG	フィブリノーゲン	200～400	mg/dL			
ATⅢ	アンチトロンビンⅢ	80～130	%	合成基質法		
APL	α2-プラスミンインヒビター	80～130				
PLG	プラスミノーゲン	80～130				
TAT	トロンビンアンチロビンⅢ複合体	<4.0	ng/mL	ラテックス免疫比濁法		CP3000
PIC	プラスミンα2プラスミンインヒター複合体	<0.8	μg/mL			
DD	Dダイマー	≤1.0				
FDP	フィブリン・フィブリゲン分解産物	≤5.0				
FMC	フィブリンモノマー複合体定量	≤6.1				
FⅡ	第Ⅱ因子活性	60.0～140.0	%	凝固時間法 (散乱光検出方式)	CN-6000	
FⅤ	第Ⅴ因子活性	60.0～140.0				
FⅦ	第Ⅶ因子活性	60.0～140.0				
FⅧ	第Ⅷ因子活性	60.0～140.0				
FⅨ	第Ⅸ因子活性	60.0～140.0				
FⅩ	第Ⅹ因子活性	60.0～140.0				
FⅩⅠ	第ⅩⅠ因子活性	60.0～140.0				
FⅩⅡ	第ⅩⅡ因子活性	60.0～140.0				
FⅩⅢ	第ⅩⅢ因子活性	70.0～140.0				合成基質法
PLT-AGG	血小板凝集能検査	なし		なし		透過光法

その他						
項目略称	項目名称	基準範囲	単位	測定原理	基準値範囲の設定根拠	測定機器と試薬
ESR	赤血球沈降速度 一時間値	M 2～10 F 3～15	mm/hr	改良ウェスターグレーン法	臨床検査法提要	Quickeye-8
抵抗試験	赤血球抵抗試験	最大抵抗 0.36～0.30 最小抵抗 0.46～0.40	%	Ribiere法(Giffin-Sanford変法)	臨床検査学講座血液検査学	用手法
骨有核数	骨髓穿刺液有核細胞数	10～25万	μL	計算板	日野法	計算板法
骨巨核数	骨髓穿刺液巨核球数	50～150	μL			

1991年 4月 1日改訂
1998年 4月 1日改訂
2004年12月 改訂
2006年 1月23日改訂

2008年12月 改訂 田中京子
2014年 1月 改訂 田中京子
2016年 9月 改訂 菅野喜久子
2017年 1月 改訂 菅野喜久子

2017年12月 改訂 菅野喜久子 2021年 9月改訂菅野喜久子
2018年 4月 改訂 菅野喜久子 2024年 9月改訂佐々木義和
2018年 11月 改訂 菅野喜久子 2026年 4月改訂 嶋田有里
2021年 6月 改訂 菅野喜久子